

科目名	ビジネスモデル概論						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	藤澤昌聡		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報工学科 3年						
授業概要	ビジネスモデルについて代表的な思考法を学ぶ ビジネスモデルを適切に分析する方法を学ぶ 考案したビジネスモデルの企画提案書を作成する						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				代表的なビジネスモデルの思考法が説明できるようになる	
		○				ビジネスモデルの基本的な分析ができるようになる	
テキスト・教材 参考図書	・翔泳社 これから伸びる人の必修科目「ビジネスモデル」のきほん						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1~2	ビジネスモデルはいつ、何に使えるのか?					
	3~4	「儲ける仕組み」を理解する					
	5~6	ビジネスモデルの構成要素					
	7~8	ビジネスモデルと事業計画の違い					
	9~10	ビジネスモデル・キャンパス・9セル					
	11~12	顧客価値提案の3大要素					
	13~14	顧客の状況をくみ取るツール(既存のビジネスモデル分析)				作業ペアを編成しておくこと	
	15~16	利益設計の3大要素					
	17~18	儲けないから儲かる(既存のビジネスモデル分析)				作業ペアを編成しておくこと	
	19~20	プロセス構築の3大要素					
	21~22	強みを認識する(既存のビジネスモデル分析)				作業ペアを編成しておくこと	
	23~24	センスをつけてみる(既存のビジネスモデル分析)				作業ペアを編成しておくこと	
	25~26	ビジネスモデルを作ってみる					
	27~28	企画提案書の作成(提案書に必要な CTPT、問題解決)					
29~30	企画提案書の発表						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)課題・レポートを適宜実施する。(3)出席回数を評価し、授業態度の注意が多い学生に対しては減点評価をおこなう。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	◎				60%
	課題・レポート	○	○		◎		20%
	出席状況・授業態度				◎		20%
履修上の注意	パソコン持参のこと。課題・小テストについては、期限を守らない場合や基準を満たさない場合は、減点または補習または追加課題を設ける場合がある。						

科目名	AI利用技術						
科目名(英)							
単位数	6単位	時間数	90時間	担当者	久家政人		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報工学科 3年						
授業概要	業界の技術動向を知り、自らその技術を習得する。 実際に体験しながら機械学習を業務や作業にどう組み込んでいくかを学習する						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				目的に応じ適切な機械学習種類やニューラルネットワークの構成が選択できる	
		○				機械学習のアプリケーションへの活用方法の基礎が説明できる	
テキスト・教材 参考図書	・ソシム すぐに使える! 業務で実践できる! Pythonによる AI・機械学習・深層学習アプリの作り方						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1～3	環境構築					
	4～6	機械学習で利用するデータの作り方					
	7～9	一番簡単な機械学習を実践する					
	10～12	顔検出 - 顔に自動でモザイクをかけよう					
	13～15	輪郭抽出 - はがきの郵便番号認識に挑戦しよう					
	16～18	自然言語処理・単語の意味をベクトル化してみよう					
	19～21	自然言語処理・自動作文に挑戦しよう					
	22～24	自然言語処理・SNS や掲示板へのスパム投稿を判定しよう					
	25～27	ディープラーニング・写真に写った物体を認識しよう					
	28～30	ディープラーニング・画像データからカタカナの判定					
	31～33	業務システムへ機械学習を導入しよう					
	34～36	ニュース記事を自動でジャンル分けしよう					
	37～39	Web で使える文章ジャンル判定アプリを作ろう					
	40～42	機械学習にデータベース(RDBMS) を利用しよう					
43～45	料理の写真からカロリーを調べるツールを作ろう						
評価方法	(1)課題・レポートを適宜実施する。(2)指示されたテーマに関する課題を提出すること。(3)出席回数を評価し、授業態度の注意が多い学生に対しては減点評価をおこなう。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題・レポート	○	◎				60%
	テーマ課題	○	○		◎		20%
	出席状況・授業態度				◎		20%
履修上の注意	再試験は実施しない。パソコン持参のこと。課題・小テストについては、期限を守らない場合や基準を満たさない場合は、減点または補習または追加課題を設ける場合がある。						

科目名	技術文書						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	川原ユウジ		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報工学科 3年						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・IT技術者が、顧客の要望や課題を把握し、技術的の裏打ちされた最適な提案ができるようになる ・クライアントに伝わる文章表現力を磨くことができる ・ビジネスを進める上で、論理的に物事を考え、実行する力が身に付く 						
授業形式	講義: ○	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					自分のライティングスキルをチェックし、ビジネスに通用する文書になる	
		○				論理的に物事を考えることができる	
		○				伝わるビジネスメールを書くことができる	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	テクニカルライティングとは(授業導入)				授業内容に係るレポート作成および提出	
	2	第1章 ロジカルライティング×テクニカルライティング活用の基礎知識					
	3	第1章 ロジカルライティング×テクニカルライティング活用の基礎知識				授業内容に係るレポート作成および提出	
	4	第2章 わかりやすく、簡潔な文章を書くテクニック					
	5	第2章 わかりやすく、簡潔な文章を書くテクニック				授業内容に係るレポート作成および提出	
	6	第3章 読み手に伝わる文章を書くテクニック					
	7	第3章 読み手に伝わる文章を書くテクニック				授業内容に係るレポート作成および提出	
	8	第4章 読みやすさを高める文章フォーマット～文章、表記のルール～					
	9	第4章 読みやすさを高める文章フォーマット～文章、表記のルール～				授業内容に係るレポート作成および提出	
	10	第5章 実践編 ユーザーマニュアル・取り扱説明書					
	11	第6章 実践編 提案書				授業内容に係るレポート作成および提出	
	12	第6章 実践編 提案書					
	13	第7章 実践編 障害報告書				授業内容に係るレポート作成および提出	
	14	第8章 実践編 社外メール文				授業内容に係るレポート作成および提出	
評価方法							
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				60%
	小テスト	○					10%
	宿題・レポート	○	◎		◎		10%
	出席状況・授業態度				◎		20%
履修上の注意							

科目名	プロジェクト開発演習B						
科目名(英)							
単位数	12単位	時間数	180時間	担当者	古賀正恭		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報工学科 3年						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・企業と連携し、顧客の要望をくみ取り、理解し、折衝しながらプロジェクトを進行させることを学ぶ。 ・チームによるアプリケーション開発作業を行い、問題点を適切に対処した「プロジェクト管理」を経験する。 ・詳細設計書に基づく開発を経験したのち、設計からの開発を実践する。 ・開発作業の成果物について「ドキュメント・ソース管理」を行う。 						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					チームによる開発作業において、スケジュール、問題管理を行える。	
	○					開発作業の生産物をソース管理ソフトウェアを使用して管理できる。	
	○					要件に応じた成果物を作成することができる。	
テキスト・教材 参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・日経BP社 プロジェクト実行ガイド大全 ・シーアンドアール研究所 わかばちゃんと学ぶ Git使い方入門 ・日本実業出版社 「プロジェクトマネジメント」実践講座 						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1～6	試用理解・調査計画書作成・基本調査			以降、次回レビューまでに進捗レビュー準備をしておくこと		
	7～12	基本調査・調査報告書・設計概要書作成					
	13～18	基本設計書作成					
	19～24	基本設計書レビュー・指摘修正					
	25～30	詳細設計書作成・テスト計画書作成					
	31～36	詳細設計書作成・テスト計画書作成					
	37～42	詳細設計書作成・テスト計画書作成					
	43～48	詳細設計書作成・テスト計画書作成レビュー、開発					
	49～54	開発・テスト					
	55～60	開発・テスト					
	61～66	運用テスト					
	67～72	運用テスト					
	73～78	運用テスト					
79～84	運用結果反映						
85～90	発表準備						
評価方法	(1)プレゼンテーションによる評価会を実施する。(2)制作過程の進捗状況を評価する。(3)出席回数を評価し、授業態度の注意が多い学生に対しては減点評価をおこなう。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、R(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	発表・作品		◎				40%
	成果物提出状況		◎				40%
	出席状況・授業態度				◎		20%
履修上の注意	再試験は実施しない。パソコン持参のこと。課題・レポートについては、期限を守らない場合や基準を満たさない場合は、減点または補習または追加課題を設ける場合がある。						

科目名	一般教養ⅡB						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	畠添正和		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報工学科 3年						
授業概要	就職筆記試験における「SPIテスト」の対策を行う。 (1)非言語分野:SPIテキスト(非言語分野)前期から継続し、数学分野(未実施分)を含め、解説&練習問題を行う (2)言語分野:「CAB・GABテスト」テキストに沿って、解説&練習問題を行う						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				非言語分野の計算が基本通りに答えを求めることができる。	
		○				言語分野の練習問題をとくことができる。	
テキスト・教材 参考図書	最新最強のSPIクリア問題集(5月末に最新版を購入・配布)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	②CAB・GAB対策(その1)					
	2	②CAB・GAB対策(その2)、③漢字対策(その1)					
	3	②CAB・GAB対策(その3)、③漢字対策(その2)					
	4	②CAB・GAB対策(その4)、③漢字対策(その3)			小テスト範囲の復習をしておくこと		
	5	小テスト(CAB・GAB一連テスト)、③漢字対策(その4)					
	6	②CAB・GAB対策(その5)、③漢字対策(その5)			小テストで間違えた問題の復習をしておくこと		
	7	①SPI数学分野の対策(その1)、③漢字対策(その6)					
	8	①SPI数学分野の対策(その2)、③漢字対策(その7)					
	9	①SPI数学分野の対策(その3)、③漢字対策(その8)					
	10	①SPI数学分野の対策(その4)、③漢字対策(その9)					
	11	①SPI数学分野の対策(その5)、③漢字対策(その10)					
	12	①SPI数学分野の対策(その6)、③漢字対策(その11)					
	13	①SPI数学分野の対策(その7)及び SPI数学分野のミニテスト					
	14	SPI性格検査、CAB・GAB性格検査OPQ ①SPI数学分野のミニテスト			これまで学んだ範囲を復習しておくこと		
15	①SPI数学分野のミニテスト及び SPI国語分野の復習、定期試験対策			定期試験対策で整理した内容を復習しておくこと			
評価方法	(1)授業の中で小テスト(小テスト)を1回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。(3)出席状況を加味する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	◎				40%
	小テスト	○	◎				40%
	授業態度など				◎		20%
履修上の注意							

科目名	就職実務 I B						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	古賀正恭		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報工学科 3年						
授業概要	前期に行った業界研究、履歴書(自己分析)を元に、業界・職種の志望動機を含めた履歴書を完成させる。また、面接時のマナーや基本的な立ち振る舞いを学習し、面接試験対策を行う。さらにエントリー企業の選択と受験時の心得を指導する。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				就職採用試験に提出する履歴書の作成ができる。	
	○	○				求職票受付面接に合格し、面接試験を受ける準備ができる。	
テキスト・教材 参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・麻生塾オリジナル 就職活動ガイドブック ・一ツ橋書店 簡単! 面接練習帳 -ようこそ面接室へ ・ソシム 世界一わかりやすい IT業界のしくみとながれ 						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1~2	前期の振り返り(履歴書作成)					
	3~4	履歴書作成、面接試験の概要、基本的な立ち振る舞い					
	5~6	面接練習1(挨拶、立ち振る舞い)					
	7~8	面接練習2(業界・職種の志望理由)					
	9~10	面接練習3(自己PR)					
	11~12	面接練習4(学業で頑張ったこと)					
	13~14	職種理解および履歴書作成(志望動機)					
	15~16	面接練習5(業界・職種志望動機)					
	17~18	面接練習6(業界・職種志望動機)					
	19~20	求職票受付面接試験					
	21~22	面接振り返り、企業アプローチの流れとマナー					
	23~24	企業研究1					
	25~26	企業研究2					
27~28	企業研究3						
29~30	企業研究4						
評価方法	(1)適宜レポート課題提出 (2)授業の出席状況・授業態度以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、R(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	履歴書提出	○	◎				30%
	レポート課題	○	◎				50%
	出席状況・授業態度				◎		20%
履修上の注意	出席が20回(全30回)に満たない場合は単位認定できない。再試験は実施しない。						

科目名	情報処理試験秋期対策ⅢB						
科目名(英)							
単位数	3単位	時間数	50時間	担当者	古賀正恭		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム科・情報システム専攻科・情報工学科・電子システム工学科・ネットワークセキュリティ科 3年						
授業概要	経済産業省主催 情報処理技術者試験の出題範囲に準拠し、各受験区分のレベルに応じた用語や知識の習得を行う。さらに演習問題を使用し、実践的な解答方法の演習を行う。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				試験範囲内の専門用語について学び、意味を説明することができる。	
		○				試験範囲内における様々なIT技術に関する仕組みについて説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	各受験区分で指示があります。						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1-5	IPAが提示するシラバスに掲載されている用語を理解し覚える。覚えた用語の定着のために、午前問題を中心とした演習を実施する。				確認テストの範囲の復習をしておくこと。	
	6	確認テスト				間違えた問題のやり直しを実施すること。	
	7-10	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、基礎的な難易度の午後問題を中心に実施する。				確認テストの範囲の復習をしておくこと。	
	11	確認テスト				間違えた問題のやり直しを実施すること。	
	12-15	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、応用的な難易度の午後問題を中心に実施する。				確認テストの範囲の復習をしておくこと。	
	16	確認テスト				間違えた問題のやり直しを実施すること。	
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。ただし、国家試験を定期試験とみなす。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	◎				100%
履修上の注意	総合評価が不合格の場合でも、再試験は実施しない。						

科目名	情報処理試験春期対策ⅢB						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	24時間	担当者	古賀正恭		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム科・情報システム専攻科・情報工学科・電子システム工学科・ネットワークセキュリティ科 3年						
授業概要	経済産業省主催 情報処理技術者試験の出題範囲に準拠し、各受験区分のレベルに応じた用語や知識の習得を行う。さらに演習問題を使用し、実践的な解答方法の演習を行う。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				試験範囲内の専門用語について学び、意味を説明することができる。	
		○				試験範囲内における様々なIT技術に関する仕組みについて説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	各受験区分で指示があります。						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1-5	IPAが提示するシラバスに掲載されている用語を理解し覚える。覚えた用語の定着のために、午前問題を中心とした演習を実施する。			確認テストの範囲の復習をしておくこと。		
	6	確認テスト			間違えた問題のやり直しを実施すること。		
	7-10	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、基礎的な難易度の午後問題を中心に実施する。			確認テストの範囲の復習をしておくこと。		
	11	確認テスト			間違えた問題のやり直しを実施すること。		
	12-15	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、応用的な難易度の午後問題を中心に実施する。			確認テストの範囲の復習をしておくこと。		
	16	確認テスト			間違えた問題のやり直しを実施すること。		
評価方法	(1)確認テスト(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	確認テスト	○	◎				60%
	出席状況・授業態度				◎		40%
履修上の注意	総合評価が不合格の場合でも、再試験は実施しない。						